

キャラクター名
八郷燐(やさとりん)

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス	ワークス	探偵	カヴァー	探偵
	ウロボロス		年齢		26
オプション					
覚醒	素体	衝動	闘争	初期侵食率	39%
出自	父親不在	経験	永劫の別れ	邂逅	幼子

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	2	0	0			2	行動値	12
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	12
精神	4	1	0	3		8	戦闘移動	17
社会	0	0	0	2		2	全力移動	34

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	10		RC			交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達	5	
運転:	2		芸術:			知識:			情報:裏社会	4	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ショットガン(スラッグ)	射撃	2r+10		5		霰銃。大体サードアイに任せている。自分でも扱える。
基本射撃	射撃	8r+24		5		C値8、侵蝕+9。侵蝕60、80で+1D
不可視の銃弾(シャドウ・パレット)	射撃	8r+32		5		C値8、侵蝕+9(11)。侵蝕60、80で+1D

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ:UGN幹部	
コネ:情報屋	
コネ:研究者	
コネ:手配師	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
傍らに立つ影	P	N		
母/八郷里香	P 庇護	N 憐憫		
依頼人/Azami	P 好奇心	N 嫉妬		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 14 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
千変万化の影	7	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	指定技能【射撃】シーン中技能LV+[SL+1]、シナリオ3回							
無形の影	1	4	メジャー	-	-	-	-	
効果:	判定の【精神】置換。ラウンド1回							
果て無き円環	1	-	-	至近	自身	自動	ピュア	
効果:	《原初の赤》重複。侵蝕基本値+3							
原初の赤:アタックプログラム	7	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	命中判定達成値+[SL×2]							
原初の赤:要の陣形	2	4	メジャー	-	3体	-	-	
効果:	対象を3体に変更。シナリオSL回							
CR:ウロボロス	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-SL							
原初の虚:氷熱の軍団	7	12	イニシアチブ	視界	シーン(選択)	自動	120↑	
効果:	対象のA値+[SL×4]、シナリオ1回。侵蝕基本値+3							
傍らに立つ影:ゲットダウン	1	2	リア	至近	自身	対決	-	
効果:	【射撃】でドッジ可能。							
シャドウダイバー	1	2	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果:	影を媒介に他者の感情を読み取る							
傍らの影法師	1	-	メジャー	至近	自身	EA:P127	-	
効果:	影をエキストラとして登場させる							
まだらの紐	1	1	メジャー	視界	EA:P127	EA:P127	-	
効果:	影を知覚持つ端末として運用可能							
イージーフェイカー:ディメンジョンゲート	1	3	メジャー	至近	EA:P35	自動	-	
効果:	どこでもドアを影に作る。侵蝕基本値+1							
禁じられし業	1	3	オート	視界	単体	自動	-	
効果:	イージーエフェクトを打ち消す。シナリオSL回							

一人孤独だった神は、
二子の月に祝福され、
三頭の峰を仰ぐうち、
四ツ目の谷に落ち、
五十もの嵐に遭うも、
六輪を持つ車で超え、
七度瀬を渡った先で、
八分の郷を訪れ、
九回人と重なった果て、
十を統べる神と成る

一神。二月。三峰。四ツ谷。五十嵐。六車。七瀬。八郷。九重。十神。

中世に分かれた、旧き戦の家。幾度も幾度も勢力を変え権力争いを続けてきた。
ある時は三一五八対二六七九、ある時は二一六対三七八、ある時は二九対三五六八、またある時は

そんなものに、興味はなかった。
女手ひとつで育ててくれた母と、支え続けてくれた十神のみんながいれば、後は何もいらぬ。
平々凡々な日々さえあれば、それでよかった。

14歳。みんな死んだ。学校から帰った私を待ち受けていたのは、原型を留めていない家と、瀕死の母、そして無惨な十神の家族だった。